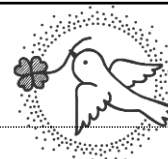




## 心をつなぐための道具



人間は、『言葉』という素晴らしい道具を持っています。その道具で粘り強く話し合い、根っこの部分の相違点を解決していく —— 報復ではなく、半歩でも一歩でも歩み寄ることが、『言葉』を持つ私たち人間の使命だと思えます。

吉永小百合

大阪国際平和センター（通称ピース大阪）という、大阪城公園内にある、戦争と平和に関する調査研究や展示を行っている施設があります。かつて私が学級担任だった頃、社会見学に行った時、このピース大阪で見つけた言葉が上記の言葉です。女優の吉永小百合さんによるものです。見学していた時に、ふと目に留まったのです。何回か読み直してみました。素敵な言葉だったのでノートにメモしました。

学校において子どもたちが生活をする中で、当然友達と意見が分かれたり、ちょっとしたことでけんかになってしまったりする時があります。けんかにならなくとも、相手の悪口を言ったり、かげで文句を言ったりすることもあります。しかしながら、けんかをしてもすぐに仲直りすることができるのも、小学校中学年くらいまでの傾向です。ただ、高学年ともなると、表面上は大きなけんかにならなくとも、心の中でずっと気にしていたり、もやもやしていたり、内面で問題を引きずってしまうことが多々あります。高学年から中学生の時期は、本音で話し合える友達さがしが始まります。いろいろな人と協力して活動していくことが多くなります。

そんな子どもたちに、小学生の頃から身につけておいてほしいのが、この道具の使い方なのです。あわせて、子どもたちに日常生活の中で使えるようになってもらいたいのが、友達との関係をよくする言葉です。子どもたちは意外と知っているようで知らない、知っていても実際にはうまく言えない、そう感じる場面に遭遇します。だから改めて教えていく必要があると思えます。

「ありがとう」の言葉。一番身につけてもらいたい魔法の言葉です。自然とすぐに出るようになれば、お互いにとても気持ちのよいものですが、素直に表現できない人が多いのも事実です。

「ごめんなさい」の言葉。仲がよい関係においては「ごめんな」でもいいと思います。まず自分から言うことが大切です。この言葉があるから、次の成長ができると思うのです。

「お願いします」の言葉。人にものを頼む時にこの言葉を使うことは大人ならよくわかっていますが、子どもはなかなか使うことは難しいものです。

「どうして」と尋ねることも大切です。相手に尋ねることなく、人から聞いた噂を信じてしまったり、誤解をしていたりすることもあります。

最後に、人との関係づくりに欠かせない「おはよう」や「はい」という挨拶や返事です。周りの人との関係をよくするこの挨拶や返事、子どもたちが気持ちよくできるようになってほしいです。返事の仕方一つで仕事がかうまくいくこともあることを、私たち大人は知っています。

私たちが持っている『言葉』という素晴らしい道具。使い方一つでよくも悪くもなります。人と人をつなぐためにこの道具を使うこと、どうかお家でも折に触れお話ししていただければ幸いです。